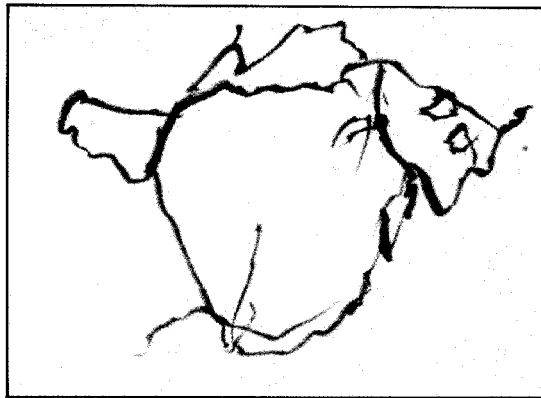


平成12年度

国立特殊教育総合研究所研究成果報告会資料

# 研究成果報告会 2001

2001.3.2 (Fri.)



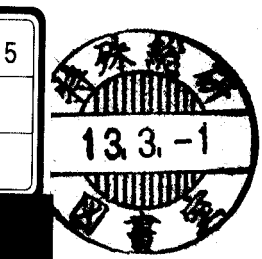
会 場：横須賀市文化会館 中ホール・展示室

主 催：国立特殊教育総合研究所

The National Institute of Special Education

1010509272

特教研 図書室



表紙絵：茨木卓哉

# 目 次

はじめに ..... 1

時 程 ..... 1

プログラム ..... 2

## I. 研究成果の報告

特別研究「障害のある子どもの書字・描画における表出援助法に関する研究」

## II. 研究活動の紹介（パネル展示）

国立特殊教育総合研究所

国立久里浜養護学校

参加者名簿 ..... 13

## 《配布資料》

特別研究「障害のある子どもの書字・描画における表出援助法に関する研究」報告書（別冊）

## 1. はじめに

本研究所の研究成果は、研究報告書や研究紀要として関係機関等に配布し、皆様にお知らせしていますが、研究所の諸活動を直接お伝えするとともに、学校等のニーズを研究活動へ反映させるため、毎年、研究成果報告会を開催しています。

今回は、特別研究「障害のある子どもの書字・描画における表出援助法に関する研究」の成果報告会をおこないます。また、皆様に研究成果をより深くご理解いただくために、展示室に質問コーナーを設けました。さらに、今年度からの新たな試みとして、展示室において、研究所の全研究部等の研究活動をパネル展示によってご紹介いたします。本研究所をより一層ご理解いただく良い機会と考え、昼の休憩時間に各部の研究者が皆様にご案内いたします。ごゆっくりご覧いただきたいと存じます。

## 2. 時 程

9:45	10:15	10:30	12:00	13:30	16:00	16:15
受付	開 会 式	研究成果の報告	パネル展示 及び 昼 食	研究成果の報告	休 憩	研究協議 閉 会 式

受 付 9 : 4 5

開 会 式 1 0 : 1 5 ~ 1 0 : 2 5

接 拶

国立特殊教育総合研究所長

高 為 重

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課課長補佐

### I. 研究成果の報告 特別研究「障害のある子どもの書字・描画における表出援助法に関する研究」

(午前の部) 1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0

(午後の部) 1 3 : 3 0 ~ 1 6 : 0 0

### II. パネル展示による国立特殊教育総合研究所・国立久里浜養護学校・研究活動の紹介

1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 3 0

閉 会 式 1 6 : 0 0 ~ 1 6 : 1 5

### 3. プログラム

#### 1. 研究成果の報告 特別研究「障害のある子どもの書字・描画における表出援助法に関する研究」

(午前の部) 10:30 ~ 12:00

1. 研究の趣旨説明            山下 皓 三 (知的障害教育研究部長; 研究代表者)
2. 「触れる」ことを通じての表出援助の実際  
                                 滝 坂 信 一 (肢体不自由教育研究部室長)
3. 事例 1                    笹 本     健 (肢体不自由教育研究部長)

(午後の部) 13:30 ~ 16:00

4. 事例 2                    江 副     新 (保護者)
5. 事例 3                    松 下 高 広 (北海道手稲養護学校教諭)

(休 憩) 14:30 ~ 14:45

#### 6. STA現象の背景 —パネルディスカッション—

山下 皓 三	滝 坂 信 一
千 田 耕 基	松 下 高 広
笹 本     健	江 副     新

#### 7. 研究協議

II. パネル展示による国立特殊教育総合研究所・国立久里浜養護学校・研究活動の紹介

12:00 ~ 13:30

◆ 参加研究部

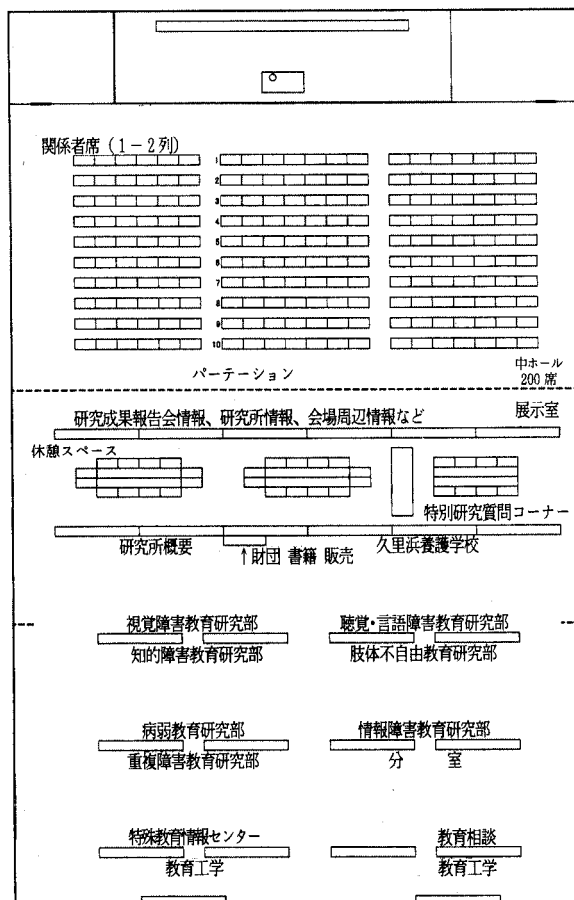
各研究部等の担当者が対応します。

視覚障害教育研究部	重複障害教育研究部
聴覚・言語障害教育研究部	教育工学研究部
知的障害教育研究部	附属教育相談施設
肢体不自由教育研究部	分室
病弱教育研究部	特殊教育情報センター
情緒障害教育研究部	国立久里浜養護学校

◆ 特別研究質問コーナー (12:30~13:00)

特別研究「障害のある子どもの書字・描画における表出援助法」のプロジェクトに参加した研究分担者、研究協力者が参加者の皆さんから質問をお受けします。

(展示会場の配置図)



※ 当日の配置を若干変更することがありますのでご了承下さい。

# 研究成果の報告

## 特別研究

### 「障害のある子どもの書字・描画における表出援助法に関する研究」

肢体不自由、知的障害、行動障害等を有することによって1)話す、2)身振りによる意思表示、3)自力での書字・描画に困難をもっている子どもたちがいます。これらの子どもたちは、まわりの人たちにわかるこれらの表出手段を使うことがむずかしいために、誤解されたり理解されなかったりしていることが考えられます。

近年、このような子どもたちが、身体に触れてもらうことによってそれまで困難と見られていた日常生活に関する動作や書字・描画という目的的な動作ができるという事例が国内だけでなく世界各地で報告されています。

本研究では、自力では書字・描画という意思表示が困難な子どもたちに焦点をあて、他者が身体に触れることによって書字・描画が実現するというところを取り上げ検討を行いました。

本報告会では、身体への接触による書字・描画等の表出援助に関する実践事例を紹介するとともに、目的的な動作が身体に触れることによって実現するというところをどのように考えたらよいのか、このような意思表示の実現は本人や周囲の人々にどのような影響をもつのかについて報告します。

#### 報告者

知的障害教育研究部長

山下 皓 三

肢体不自由教育研究部長

笹 本 健

肢体不自由教育研究室長

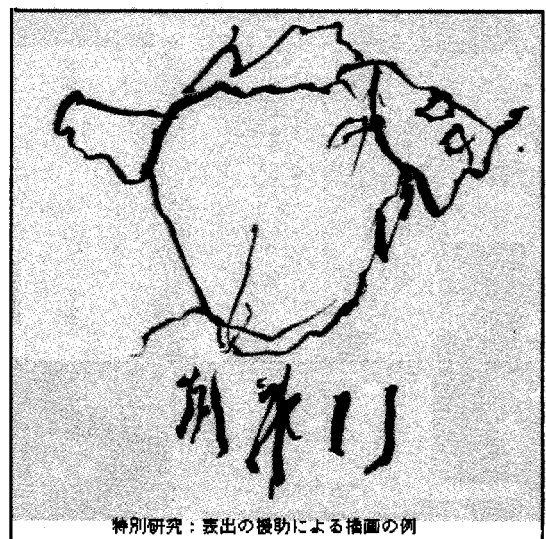
滝 坂 信 一

北海道手稲養護学校教諭

松 下 高 広

保 護 者

江 副 新



特別研究：表出の援助による描画の例

## 1. 研究の趣旨説明

山下 皓三 (知的障害教育研究部長；研究代表者)



## 2. 「触れる」ことを通じての表出援助の実際

滝 坂 信 一 (肢体不自由教育研究部室長)

### STA (Soft Toching Assistance) という表出援助の方法

この研究で取り上げたSTAとは、目的的な動作を自力で行うことが困難な人々に対する表出援助の方法です。ことばのとおり、「そっと触れる」ことによる援助です。具体的に、どのような場面で、どのようにしてこれを行うのかについて報告します。

### 3. 事例 1

笹本 健 (肢体不自由教育研究部長)

#### 重度・重複障害児といわれた子どもへの STA の適応事例

重度の四肢体幹の不自由があり、自らの動きによって自分の意図を表すことが困難な、いわゆる重度・重複障害児といわれている子どもに対し、STA を適応した結果、さまざまな潜在能力を有することが認識された事例について発表します。

## 4. 事例 2

江 副 新 (保 護 者)

自閉症の娘と STA や類似する方法を用いて行ってきたコミュニケーション、そしてそこから気づいたことについて、保護者の立場からの考えを含めて紹介したいと思います。

## 5. 事例 3

松 下 高 広 (北海道手稲養護学校教諭)

肢体不自由養護学校において行った STA による援助について、かかわりの経緯と検討を含めて報告します。

## 6. STA現象の背景 —パネルディスカッション—

プロジェクトでは、STAを実際に試みながら様々な観点から検討を行ってきました。ここではその成果の幾つかを紹介し、この援助方法の特徴や提起していることについて研究の分担者と協力者とで討論を行います。

また、引き続き参加者の皆さんからご意見ご質問を受けて全体協議を行います。

## 7. 研 究 協 議

以下、参加者名簿（省略）

特別研究「障害のある子どもの書字・描画における表出援助法に関する研究」に関するご意見、お問い合わせは、以下の所まで郵便、FAXまたはE-mailにてお寄せ下さい。

〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-1-1

国立特殊教育総合研究所

肢体不自由教育研究室長 滝坂 信一

TEL 0468-48-4121 内331 FAX 0468-49-5563

E-mail : takisaka@nise.go.jp

Homepage : <http://www.nise.go.jp>

特殊研 D-164

国立特殊教育総合研究所研究成果報告会資料  
研究成果報告会2001

平成13年3月2日 発行

編集・発行 国立特殊教育総合研究所  
〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5-1-1